

工藤篤子メールマガジン 120号 2008.02.29

●祈りの学校（ハンブルクでの日々）

お元気でいらっしゃいますか？

引き続き暖冬が続いているドイツですが、最近は何日かの気温が10度を超えるようになりました。

雪国育ちなのに寒さに弱い私は、冬には必ずといっていいほど風邪をひいて寝込むのですが、おかげさまで、今年はこれまで一度も風邪をひかずに健康が守られてきました。今、このまま春を迎えることができますように願っています。



写真:

信仰の友、ハンス&エルケご夫妻とハンブルクのカフェにて。

第二次大戦後、ポーランドのシュトゥットゲン収容所（グダンスク近郊）から解放されたユダヤ人500人が、バルト海を渡って、ドイツのエッケルンフェルデ港（キール近郊）に連れて来られました。しかし、8日間の航海の間、水も食糧も与えられず、生き残った元囚人は50人だけでした。その生き残りのユダヤ人も、エッケルンフェルデでは、収容所よりひどい扱いを受けて次々と死んでゆき、最終的に生き残ったのは22人だけでした。

ハンスとエルケは、エッケルンフェルデのユダヤ人記念館の庭に置かれた、その時の死亡者の名が記された墓の手入れを始めるようになりました。その後、イスラエルを旅行した際、一人の生存者との出会いを通して、さらに何人かの生存者とその家族との出会いに導かれるようになりました。ハンスとエルケがこの10年間に会った生存者とその家族のこと、そして彼らが提供してくれた資料をまとめた記録が、今年1月、エッケルンフェルデのユダヤ人記念館と、イスラエルのヤド・バシェムに収められました。

●祈りの学校（ハンブルクでの日々）

◆悔い改め ～はじめの愛～

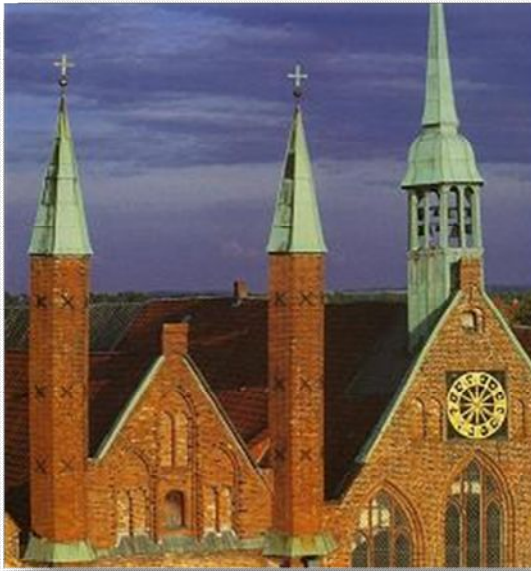
昨年の7か月の静思の時を通して、私はそれまで体験したことのない深い主との交わりの時に入れられるようになりました。その後も、そのような主との交わりの中で、今までとは違った霊性で賛美奉仕をさせていただけるようになったことを、心から感謝しています。

ところが、今年に入ってから、新しく買い換えたパソコン操作や、アナログ接続からDSL接続に変更するための手続き、工事など、すべてがなかなかうまくゆかず、その他にも、日々たくさんの問題に振り回されるようになりました。そのような中、ある日、これらの問題は、私の中に告白されていない罪があって、それが妨げとなり、主からの恵みと導きを阻止していることから来ているのかもしれないと思われ、主に、私の心に光を当てて心の中を探ってください、と祈り始めました。

そこで示されたのが、はじめの愛から離れてしまった私の心でした。ちょうど昨年の今頃と同じ悔い改めです。5ヵ月間の奉仕を終えてドイツに戻った私は、長い戦いに服も靴も土と泥にまみれ、疲れ果てて家に戻った兵士のような感じでした。みなさんの祈りに支えながら、主の福音のために必死に戦ってきた、といった感じでした。

けれども、戦った後の兵士には、汚れと疲れのほかに、体のあちこちに傷もあることに気付かされるようになりました。その傷は、その時その時に、主に癒していただくために差し出す余裕がなくて、そのまま放置してきた傷

でした。そしてよく見ると、その多くは、いろいろな状況を受け入れることができずに受けた傷でした。つまり、主がご計画をもって与えられた状況であるという、そこに主のご計画を認めることのできなかつた不信仰と、主へのはじめの愛を失ったがゆえの傷であることも認識するようになってゆきました。



そうやって思い浮かぶひとつひとつを主に告白してゆくと、赦され、傷が癒され、再び主の深い愛に引き寄せられてゆくのを感じるようになりました。現実面での問題の方は、そうはすんなり解決しませんでした。これも、主が何かのご計画があって与えてくださったものであると受け入れられるようになり、ひとつひとつが、困難ではなく、新しい学びになってゆきました。

写真:リューベックのマリーエン・キルヒェ(マリア教会)。優れたオルガニスト、作曲家、即興演奏家であったブクステフーデ(1637?-1707)は、この教会の専属オルガニストとして活躍しました。1.み足、2.ひざ、3.手、4.わき、5.胸、6.心臓、7.み顔の7つのカンタータの部分から構成された彼の受難曲「われらイエスのみ体」Membra Jesu nostri は、心深く打つ感動的な作品です。パウル・ゲルハルトの有名な賛美歌「血潮したたる」は、この7番目の「み顔」のラテン語テキストをドイツ語に訳したパラフレーズです。

◆祈りたくない時

そうやって、心も周りの状況もある程度安定した時、今度は、祈っていても心が乾くという日々がたびたび続くようになりました。実に幸いな交わりの日もあるのに、日によって、急に心が乾いた状態になるので、少なからずショックを覚えるようになりました。

けれども、マザー・バジリアが、そのような時のことを、祈りの本の中で語っていたことを思い出しました。

「それは、霊的に乾いた時期を通るよう神が導いておられるからです。霊的な暗闇に捧げる祈りは、特別な祝福を宿し、そして聞き入れられます。それは犠牲の祈りであり、また自分に打ち勝つ祈りです。だからこそ主にとっては非常に尊いものなのです。」

ブラザー・ローレンスの「敬虔な生涯」の第一の談話にも、同じようなことが書かれていました。

「祈りのとき、無味乾燥でかえっていや気を感じることもあっても、忠実でなければなりません。これによって神は、ご自分に対する愛を試みられるのです。このような時こそ、神にゆだねきつた歩みをなすべきです。たったそれだけのことが大きな進歩をもたらすもことになることがよくあります。」

このふたりのことばに励まされて、私はそのような中でも祈り続けることができました。

最近、再び主との深い交わりに心満たされる日々を過ごしていますが、あのような乾いた時を過ごしたことで、今、いくつか気付かされていることがあります。ひとつは、主から、前より少しだけ一歩進んだ自制心をいただいたのではないかとことです。食べるにしても、人と話すにしても、時間の使い方も、その時の感情、感覚にとらわれないところで、主のみこころを考えながら行動する自分を発見するようになりました。

もうひとつは、あの時に捧げた祈りが、ほんとうに聞かれていたことでした。ひとりの姉妹が主から離れそうになっていたので、私はかなり長い時間、乾いた心を主に捧げながら、彼女のためにとりなしの祈りを捧げたのです。その数日後、その姉妹は、主に立ち返ったことを知らせてくれました。彼女が再び主と共に歩む決心をしたのは、何と私が彼女のために祈りを捧げていたときの出来事でした。主は、あの時の祈りをほんとうに喜んで聞き入れてくださったのだなあと思うと、今までは、主から一心に愛を受けだけの者であったけれども、自分も少しは主に愛を捧げられる者としていただけのような、そのような喜びを感じています。



ドイツでの生活は、コンサートの準備とともに、大切な霊的備えの時であることを覚えます。日本行きまであと25日です。春からの賛美奉仕に向けて、ドイツでの一日一日を大切に過ごしてゆきたいと思っています。どうぞ皆様も、この者のためにお祈りお支えください。

日本は、気候の変動の大きい毎日が続いていると聞きました。皆さまの健康が守られますよう、心からお祈りしています。

主のご愛が、皆様とともにありますように！

工藤篤子

【事務局よりご案内】

＜中国・杭州への応援ツアー＞受付中！

これまでのメルマガでもご案内させていただきましたように、工藤篤子は中国・杭州の崇一堂基督教会から招きを受け、13日の礼拝において、賛美を捧げます。私たちは次のような応援ツアーを組み参加します。また賛美礼拝日の前後には、各地の観光も予定しています。参加ご希望の方は、3月10日までに事務局までご連絡ください。皆さまの参加を心よりお待ちしております。

時 :2008年4月11日(金)～15日(火)

団 長:黒田 禎一郎牧師 (AKMM世話人会代表)

定 員:15人(定員になり次第締め切ります) 締め切り日:3月10日(月)

参加費用:13万5千円 (飛行機代、4星クラスのホテル宿泊・貸し切りバス費用、全食事等を含む)

* 燃料チャージ費用は別途必要です。

主 催:AKMM(工藤篤子音楽ミニストリーズ)

◎ 旅行日程表 (予定)

4月11日(金)	関西空港 10:00 上 海 11:35 蘇 州	ANA 専用バス	空路、上海へ 到着後、蘇州へ・蘇州市内観光 寒山寺 (蘇州泊)
4月12日(土)	蘇 州 杭 州	専用バス	蘇州市内・近郊観光(虎丘斜塔、留 園)シルク工場など 杭州へ (杭州泊)
4月13日(日)	杭 州	専用バス	日曜礼拝、崇一堂教会 工藤篤子賛美礼拝 晚餐懇談会(予定) (杭州泊)
4月14日(月)	杭 州	専用バス	杭州観光(西湖遊覧・六和塔・その他) (杭州泊)
4月15日(火)	杭 州 13:50 関西空港 16:35	ANA	空路、帰国へ

●申し込み・お問い合わせ先:

AKMM事務局「中国・杭州への応援ツアー」係り

電 話:06-6226-1334

ファックス:06-6226-1336